

市民活動支援補助金 公開プレゼンテーション<山形県山形市>



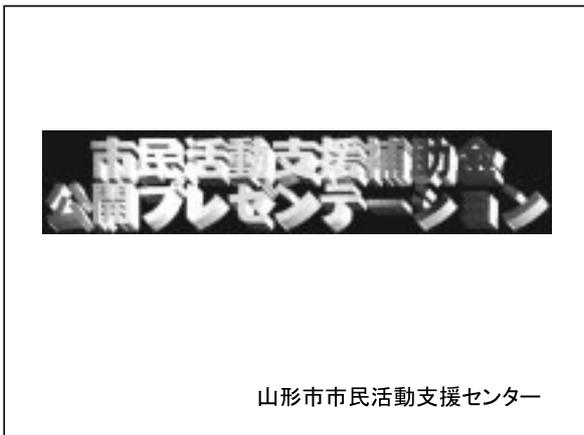
齋藤 政美
山形市企画調整部企画調整課
市民活動支援センター

皆さん、こんにちは。山形から参りました齋藤と申します。八戸まで新幹線ができましたので、随分早くなりまして、3時間半で来るようになりました。それでもまだ、東京よりは遠いのかなという感じがしています。

私は現在、山形市市民活動支援センターに所属しています。16年度から企画調整課の係長として、NPO、ボランティア関係の仕事をしています。16年度があげて早々、市長に呼ばれまして、「予算要求で、NPO

法人の設立のための補助金制度をつくったので、是非やってください」という命令がありました。

NPO法人設立にかかる経費の一部を10万円を限度に補助しようというものです。総額200万円、1団体10万円、20団体分でした。残念ながら初年度は法人認証となったのは6団体、結果的に60万円だけの支出でした。ただし、行政のお金ですから、できるだけその使い方を明確に説明する必要があるのではないかとということで、補助した団体プラスアルファで活動発表会



1

経緯

- 平成16年度
NPO支援への本格的着手
⇒ NPO法人の設立補助金制度
(1団体10万円)

本当に必要? 

2

NPO法人設立補助金の概要

- 平成16年度にNPO法人化した団体が対象
- 補助金を申請する前に、市民に公開の場で事業内容を説明する必要がある。
→ 補助団体(6団体) + 既存法人による活動発表会を開催した。

↓

公開プレゼンテーションの原型

3

平成17年度の展開

- 「NPO法人設立補助金(10万円)」を廃止し、「市民活動支援補助金(30万円)」を創設。
- NPO法人以外の市民活動団体を対象に入れた。

※新しい補助制度の対象には、NPO法人立ち上げ費も可能に

4

をしました。それが、今日いろいろお話しさせていただき公開プレゼンテーションの原型になったのです。

NPO法人設立にお金がかかるということで10万円の補助制度がつくられたのですが、市長に、「設立に必要な10万円より、実際の活動にやはりお金がかかる。何もNPO法人に特化する必要はないんじゃないですか」というお話をさせていただきました。その結果、平成17年度は市民活動支援補助金というものを新たに創設し、残念ながら予算総額は200万円のままでしたが、NPO法人以外の市民活動団体も対象に、団体の活動に対し補助を実施しました。

市民活動団体が提案する事業の中からいくつかを選んで補助するというやり方ですが、選定方法について工夫しました。多くの自治体では、早いもの順とか、何人かの先生方で構成する選定委員会を設置するなどして交付先を選んでいていると思います。しかし、やはり市民が選定に実際に参加するほうがいいのではないかとということで、公開プレゼンテーションを選定過程に採り入れることとしました。

これは(資料6)公開プレゼンテーションまでの流れです。補助金でこういう事業をしたいという提案発表の参加団体をまず募集します。同時に市民審査員100名の公募も行います。

書類審査がありまして、参加申込団体から、事業概要、予算などを出していただき、それを最初に審査します。書類の不備、不適合、事業内容が市の要綱に合致するかという点に絞って簡単な審査をします。

その後、説明会、発表順を決める抽選会をいたします。これが終わると本番までの間、個別に参加団体からプレゼンテーション方法などの相談を受けます。本番は持ち時間が5分しかないので、各団体はリハーサルを何回もしてプレゼンテーション当日を迎えます。また、参加団体から提出された資料は冊子にして、公募で選ばれた審査員にあらかじめ郵送しておきます。

ここ(資料7)にある日本ダウン症協会山形県支部は財団法人となっていますが、実際は任意団体的な活動をやっている団体で、実はこれが19年度でトップ当選した団体です。

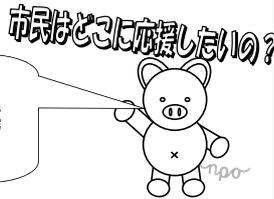
会場の広さや構造に配慮して、4台のプロジェクターを使って発表していただきました。19年度は172名の審査員(一般公募100名、応募20団体から各5名以内、山形県内の行政関係者、山形市役所担当部局など)による市民審査という形で、各団体5分の持ち時間で20団体発表していただきました。

これが発表の様子です。平成17~19年まで3カ年実施してきましたので、ちょっと写真が古いものもあり

市民活動支援補助金はこんな制度!!

市民活動団体が提案する事業の中から、いくつかを選んで補助金(上限30万円)を交付する制度

でも・・・
どうやって事業を選んだらいいの?



5

公開プレゼンテーションまでの流れ

1. 参加団体公募・市民審査員公募(100名)
2. 参加申し込み受付
3. 書類審査(書類不備・不適合チェック)
4. プレゼンテーション説明会・抽選会
5. 参加団体からのプレゼン方法の相談
6. 選考資料印刷・配布(市民審査員あて)
7. 参加団体のリハーサル
8. 本番

6

項目	内容
募集期間	平成17年度 4月15日(水)～4月29日(木)
募集対象	山形県内に在住・在籍する市民活動団体(任意団体、NPO法人、NPO等)
募集内容	市民活動支援補助金の交付を受ける事業の提案(事業概要、予算、効果等)
応募方法	山形県社会福祉課(〒980-0855 山形市青葉1-1-1)へ提出
応募料	なし
審査方法	書類審査、公開プレゼンテーション
選考結果	平成17年度 4月29日(木)発表
補助金交付	平成17年度 5月15日(水)～5月31日(木)
問い合わせ先	山形県社会福祉課 市民活動支援係
電話番号	023-622-2111
ファクス	023-622-2112
メールアドレス	shimin@city.yamagata.lg.jp
ホームページ	http://www.city.yamagata.lg.jp/shimin

7

公開プレゼンテーションの様子

8

ます。

これは（資料11）河川アダプトに関連して、桜を植えるなどいろいろな活動をしている団体で、草刈り機が欲しいという団体でした。これは（資料12）花火大会を見物に来るお客様がごみを置いていくので、それを分別するための仕組みをつくりたいという理由で応募した団体のものです。これは（資料13）山形県内で水質ワーストワンの川に金魚を放すという団体、3万6,000円の申請だったのですが当選しました。それから、これ（資料14）は食育。それからユニバーサルデザイン（資料15）。

山形市内には大きな五つの堰があり農業用水が流れています。そこに自生するバイカモという金魚草の一種を保存したいということで応募した団体の発表です（資料16）。寸劇方式でうちわにカンペを貼ってやっております。

これは（資料17）国際系の団体で医療通訳、いわゆる外国人花嫁さんたちが病院に行ったときに、なかなか言葉がわからなくて不自由するというので、医療通訳の養成と派遣事業に関する応募でした。

市民投票はノートパソコンでやります。1人5票で必ず別の団体を選ぶ。別の団体を入れないと入力できない仕組みです。組織票の防止と市民にとって必要な

事業が選ばれやすくするためです。

これは（資料21）市長が腕組みをしながら集計結果を見ている写真です。平成19年度は20団体中9団体が補助をもらうことになりました。NPO法人のプレゼン能力がちょっと弱い印象があり、任意団体のほうが補助金を獲得している傾向にあります。

これは（資料23）市長からの結果発表と認定証の交付です。今年は、企業からも金一封がございました。実はこの認定証、非常に効果があります。何ら法的な根拠はないのですが、補助事業で呼んだタンザニアの青年の滞在に関して、入国管理局から延長を認めていただいたという例があります。

最後は市長の講評です。マスコミの取材がありました。会場アンケートでは、満足したという結果をいただきました。

この補助金のポイントをいくつか挙げてみます。

提案型の事業補助制度であること。行政の立場でいろいろな事業に対してアドバイスができること。最終決定は市長ですが、交付先を選ぶ過程に直接市民が参加するというので非常に透明性が高いこと。それから、多くの市民、行政関係者がNPO法人や市民活動団体の活動を直接見ることができるといこと。さらにはプレゼン力がアップしてステップアップが図られ



プロジェクター4台を駆使

9



平成19年度 172名の市民審査員

10



11



12

るということ。

平成20年度は、補助金はいらないから公開プレゼンテーションに出さしてほしいという団体もありました。その理由はマスコミが取材に来るからです。

今後は、継続的な活動ができる団体ばかりではありませんので基金などが作れば良いと思っています。

また、企業からの支援を受け入れられるような形ももっとつくっていきたいとも思っています。

これで説明は終わりますが、全国から議員さんをはじめ、視察をいただいております。是非、山形においてになって、私の説明をもっと受けていただければありがたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



13



14



15



16



17

市民投票の特徴と効果

1. ノートパソコンでの入力(簡便)
2. 一人5票(必ず、別の事業を選ぶ)
3. 組織票の防止
4. 市民にとって必要な事業が選ばれやすい
5. 開票時間の短縮(約5分)

18

市民投票くん2007 (1号機)

①	ふれあい学習推進「子どもとあそぶ」 【ふれあい学習センター】	⑩	「一人5票」原則に厳格に実施 【投票用紙の回収】
②	車の安全、子育て支援に貢献する 【交通安全教室】	⑪	暮らしのデザイン相談室 【生活支援センター】
③	子供達が安心して遊ぶことができる場所を 【児童館】	⑫	環境保護活動推進プラン 【環境教育センター】
④	子供たちが安心して遊ぶことができる場所を 【児童館】	⑬	この街を元気にする事業 【まちづくり委員会】
⑤	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑭	子どもたちが安心して遊ぶ場所 【児童館】
⑥	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑮	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】
⑦	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑯	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】
⑧	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑰	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】
⑨	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑱	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】
⑩	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	⑲	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】

訂正 入力できます

19



20



21

平成19年度山形県市民投票実施結果発表会(第1回)

10	いばきま、ごきま、ごきま 【ごきまセンター】	特定非営利活動法人 ごきまセンター	37
11	セレクトデザインプロジェクト 【セレクトデザイン】	セレクトデザイン実行委員会	36
12	こどもセンター 【こどもセンター】	こどもセンター	33
13	花笠まつり推進委員会 【花笠まつり推進委員会】	特定非営利活動法人 花笠まつり推進委員会	32
14	環境保護活動推進プラン 【環境保護活動推進プラン】	環境保護活動推進委員会	31
15	シニアシップ教育の推進 【シニアシップ教育推進委員会】	シニアシップ推進委員会	30
16	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	お祭り委員会	29
17	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	お祭り委員会	27
18	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	お祭り委員会	26
19	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	お祭り委員会	15
20	お祭り・お祭り・お祭り 【お祭り委員会】	お祭り委員会	13

投票者総数 172 人
のべ投票数 880 票

22



23



24



今年は、企業からの支援もあった。

25

認定証

貴団体の事業は 平成19年度山形
市市民活動支援補助金公開プレゼン
テーションにおいて 補助対象事業
として認定されたことを証します

団体名 ○○○○
事業名 △△△△

この認定書の
効果は抜群！

事例
補助事業で喚んだ
タンザニア人の在留延長を
入国管理局に認めてもらっ
た。

← 公印の効果

平成19年7月29日
山形市長 中川 昭博

26



市長の講評

27



マスコミの取材

28

市民投票 電子投票

↓

すぐに会場内で結果発表

会場内アンケートでは、参加者の92%以上の人が、この決定方法に「満足した」と答えてくれました。

29

この補助金のポイント

- 今年は、補助金はいらないから、公開プレゼンテーションにだけ参加させて欲しい。
- 自分たちの活動を多くの人たちに知って欲しい。
- 本音は、マスコミに取材に来て欲しい。
→ 応募団体が増加した。
- 多くの市民・行政関係者がNPOUを当たりし、共感した。
- プレゼンカのアップ→他の助成事業もステップアップ
⇒ 補助金30万円 + コマーシャル効果

効果の事例 山形県内の骨髓バンクの登録者数が5倍に

30

今後に向けて

- 継続的な活動の支援も考えたい
⇒ 自分で稼げる団体ばかりではない
⇒ 基金の必要性
- 企業の資金の受け入れを考えたい
⇒ 企業側のニーズに応える努力が必要

31

これで、私の説明は終わりますが、是非、山形市市民活動支援センターにおいでください。

詳細について、ご案内させていただきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

32